

親子見学会

阪神高速道路公団
稲荷山トンネル工事
&
琵琶湖疏水記念館

当協会関西支部では、去る7月31日に、恒例の小学生高学年とその保護者を対象として「親子見学会」を開催しました。

将来を担う子供たちに建設中の現場を実際に見てもらい、親子のふれあいを通して土木技術のすばらしさや、土木事業の大切さを体験するとともに、自然とのかかわりを学ぶことを目的として企画・実施、今年で3回目を迎えます。

今回は、阪神高速道路公団が京都市山科区～伏見区で進めている、京都市道高速道路1号線（新十条通）の稲荷山トンネル工事の建設現場と、琵琶湖疏水竣工100周年を記念して平成元年に建設された、京都市左京区の琵琶湖疏水記念館を見学しました。

実施にあたっては、各新聞社のご協力を得て多数の応募者の中から抽選で40組80名の親子が選ばれ、当日は35度を超す猛暑にもかかわらず元気にご参加いただきました。



京阪神各地区から見学会に参加した小学4～6年生とその保護者は、バス4台に分乗して最初の目的地である稲荷山トンネル工事建設現場に到着。

会場では阪神高速道路公団伏見工事事務所長の中村所長が「この見学会によるトンネル工事の現場体験を通して、1人でも多くの人に興味をもっていただくと共に、将来土木技術者が生まれることを期待しています」と挨拶。そして全体の工事概要の話が続きました。また施工担当の右高所長、大杉所長からトンネル掘削方法などについても大変わかりやすい説明がありました。

●重機の迫力、初めて見る

荒削りな地下空間に驚きと興味の渦

工事概要や工法の説明を受けた後、一行は右高所長、大杉所長らの案内で2組に分かれ、ヘルメットと長靴を身につけてバスでトンネル坑内へ入りました。途中からバスを降り掘削工事が進んでいる1.467m地点まで歩くことに。バスから降りると、子供たちは普段見慣れない吹きつけのコンクリート壁の荒削りな肌合いや、外気との温度差に戸惑いながらも、初めて体感する地



稲荷山トンネル入口



見学後の質疑応答

大型掘削機によるデモンストレーション



大型掘削機の先端部



水路閣



琵琶湖疏水記念館



記念館内部

インクライン



下工事現場の世界に次々と驚嘆の声があがっていました。トンネル先端部に到着し、見学のために用意された大型掘削機によるデモンストレーションが行われると、その圧倒的な迫力に大人も子供も大感動といった趣でした。

また所長がこの地層は約1億5千年前のもので、ひょっとすると恐竜の化石があるかもしれませんとの説明に、にわかに騒然となりました。そして用意された袋いっぱい記念の石を詰め込むなどジュラシックパーク気分を味わっていました。

見学後、質疑応答では「何人で掘っているのですか」、「工事にいくらかお金がかかっているの」、「雨の日は仕事をされるのですか」など子供ならではの質問が相次ぎましたが、これらにユーモアたっぷりに答える所長の話に会場は大いに盛り上がりました。参加者の方々から「トンネルのことがよくわかりました」、「開通したらぜひ車で通りたい」と感想を語っていたのが印象的でした。

●竣工100年、今なお社会に寄与する土木技術
先人の先見性と大きなロマンに感動する

午後からは琵琶湖疏水記念館へ。南禅寺の大門

をくぐり水路閣、疏水、インクライン（傾斜鉄道）に至る琵琶湖疏水の壮大な遺産をたどりました。100年前の事業とはいえ、今なお市民生活にとけ込み、多大な貢献をしている先人の偉業に一同ため息。当時を彷彿とさせる語り口や、親切丁寧な案内をいただいたシルバーガイドの説明に耳を傾けながら記念館に到着。記念館ではビデオで明治初期の京都の諸情勢や疏水工事の説明を受け、展示されている設計図や模型、絵画、写真などを見学しました。

見学会を終えて帰途ついで車内では「楽しかった。これで夏休みの宿題は決まったね」などと、親子の明るい会話が飛び交っていました。

予定通り終点の京都駅に到着。子供たちの笑顔と保護者のお礼の言葉に、地味ではあるが、誠意をもって継続して広報に努めていくことが大切だと感じました。今回も事故なく好評のうちに見学会を終了できましたが、見学会実施にあたってお世話になった関係各位のご支援、ご協力に深く感謝致します。